

**本件連絡先**

泉南市市民生活環境部産業観光課

担当：岡・城野

TEL:072-483-8191

Mail: sinkou@city.sennan.lg.jp

平成31年1月25日

泉南市報道提供資料

報道機関 各位

泉南市秘書広報課長 古木 孝彦

(広報担当：南方)

市内文化財の日本遺産への認定申請について

泉南市では宮崎県宮崎市・奈良県橿原市のほか、9府県22自治体による「(仮称)神武東遷」日本遺産推進協議会準備会(事務局宮崎市)へ参画し、市内男里おのさとに所在する「男神社」および「男神社おのじんじゃ摂社せつしゃ浜の宮はまみや」が日本遺産として認定を受けることを目指しています。このたび文化庁への認定申請を行いましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

【申請タイトル】神武東遷じんむとうせん ～ 古いにしえと現在をつなぐ、遥かなる道のりはる～

【申請日】平成31年1月25日

【参画自治体】 宮崎県：高原町、都農町、宮崎市、日向市  
大分県：佐伯市、大分市、宇佐市  
福岡県：芦屋町、北九州市  
広島県：府中町  
岡山県：笠岡市、岡山市  
大阪府：東大阪市、泉南市  
和歌山県：和歌山市、那智勝浦町、新宮市  
三重県：熊野市  
奈良県：東吉野村、宇陀市、桜井市、橿原市

【構成文化財数】 56件

男神社・摂社浜の宮のほか、宮崎神宮こうぐう、皇宮神社かしはら、橿原神宮など、22団体から神武東遷のストーリーにまつわるものを構成文化財としている。

## 【ストーリー概要】

日本の神話や国家の成立が記された、わが国最古の歴史書『古事記』・『日本書紀』には、宮崎・日向で生まれ育った神武天皇が、奈良・大和橿原までの遥かなる道のりを旅し、初代天皇として即位する物語が記されています。「神武東遷」と呼ばれるこの旅路の伝承は各地に残っています。それらの土地を訪れ、伝承とともに生きる人々の姿を知ることが、「現在を生きる私たち」と「かつて生きた人々」とをつなぐ縁となるのです。

## 【男神社・摂社浜の宮について】

泉南市男里に所在する。平安時代中期（延長5（927）年）に編纂された『延喜式神名帳』に「男神社二座」として記される泉南市内では唯一の式内社である。主祭神としてイツセノミコトと神武天皇が祀られる。

摂社浜の宮は、男神社の北方約1.3kmに位置し、その境内は東西約250m、南北約60mの自然の砂丘となっている。江戸時代には「天神山」、現在は「天神の森」と呼ばれ、周辺の市街化が進むなか、今も自然地形の高まりが良く残される。かつては砂丘近辺まで海が迫っていたものと考えられ、オノミナト伝説ともよく符合する。浜の宮は「元の宮」とも呼ばれ、平安時代に現在の地に移転したといわれる。

創建の由来は、神武東遷の途上、河内国孔舎衛坂で大和の武族ナガスネヒコと戦った際、重傷を負った神武天皇の兄・イツセノミコトが海路、茅渟の山城水門にたどり着いたところ、傷を介抱した村人がイツセノミコトから賜った「海辺の石」を「天神山」に祀ったことが始まりとされる。イツセノミコトが無念の雄叫びをあげたことから、この地を男（雄）水門と呼ぶようになり、「オ」という地名が残されたと考えられている。

## 【主な指定文化財など】

### （大阪府指定有形文化財）

- 男神社本殿 五間社流造 江戸時代前期（17世紀中頃）建築
- 末社若宮神社本殿 一間社流造 江戸時代中期（17世紀末～18世紀前期）建築

### （国登録有形文化財）

- 拝殿および幣殿 昭和16年（1941）建築
- 旧拝殿および幣殿 明治15年（1882）建築、明治36年（1903）改修、昭和15年（1940）頃移築
- 透塀 明治15年（1882）建築、昭和前期改修

(大阪みどりの百選)

・男神社の社叢<sup>しゃそう</sup>

【日本遺産について】(文化庁サイトより抜粋)

「日本遺産 (Japan Heritage)」は地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

日本遺産は、既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている点に違いがあります。

「日本遺産」に認定されると、認定された当該地域の認知度が高まるとともに、今後、日本遺産を通じた様々な取組を行うことにより、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化等にも貢献し、ひいては地方創生に大いに資するものとなると考えています。



男神社 拝殿



男神社 撰社浜の宮